

## 不登校生徒の学習等への支援について

### 不登校生徒の状況

本校では、集団の中で授業を受けることが苦手な生徒がいる。しかし、個別に登校して学習したいという生徒も多い。また、友達と関わりたい気持ちや自分の居場所づくりを学校の中に求めている。

### 具体的な取組

水曜日から金曜日までの午前中に教室以外の場所で個別指導教室を設置し、組織的に指導にあたっている。

学習の遅れが見られる学習内容の定着やコミュニケーション能力の向上を目的とし、丁寧な個別での対応に取り組んでいる。

月2～4回、加配教員が中心となって特別支援会議を開催している。会議では、加配教員や各学年の教員以外にも、スクールカウンセラーや生活指導主任、養護教諭、特別支援教育コーディネーター、管理職と情報共有を行っている。支援計画を検討・決定するとともに進捗状況を管理し、報告している。

家庭訪問や面談の際、多面的な支援ができるよう、スクールソーシャルワーカーが同席できるようにしている。若手教員等、経験が少ない教員の支援にもつなげている。



不登校生徒に関する情報をデータ化し、全教職員が見えるようにしている。情報を共有することにより、一人一人の生徒に合わせた多面的な指導を行っている。

### 成果

友達と関わりたい気持ちや帰属意識も芽生えてきている。体育的行事では、応援席で参加することができた生徒もいた。個別指導教室の設定日を増やしたことにより、登校機会が増加し、多様な学習支援につながった。居場所を作ることで、不登校の未然防止や不登校の減少につながっている。

### 課題

予算の関係で人材確保に限界がある。今後、さらなる人材確保の方法が必要である。また、小学校段階から不登校であった生徒数が増加傾向である。